

【ベストペーパー賞選定記】

石井信明（第11回情報システム学会全国大会・研究発表大会 プログラム委員長）

2015年11月21日（土）、22日（日）、慶應義塾大学日吉キャンパスにて、第11回情報システム学会全国大会・研究発表大会が開催されました。本大会では、昨年に引き続き研究発表の中からベストペーパー（BP）賞と特別賞の選考が行われ、山口高平（慶應義塾大学）さんがBP賞を、黒田光洋さんがBP特別賞をそれぞれ受賞されました。

・ベストペーパー賞

山口高平（慶應義塾大学）： 実践知能アプリケーション構築プラットフォームPRINTEPS

・ベストペーパー特別賞

黒田光洋： 情報システム部門のひとり運営実践と中堅中小企業の現実解

BP賞、BP特別賞の選定にあたっては、投稿された論文についてプログラム委員が事前の書類審査を行い、今年度は候補として10編を選定しました。大会当日は、プログラム委員が候補論文の発表を聴講し、大会終了後に論文と当日の発表内容を総合的に評価しました。その結果、冒頭のように各賞が決まりました。

BP賞の山口高平さんの論文は、人と機械がインタラクションをとり、互いに進化を続ける「知能共進化」の枠組みと、機械学習、音声対話などからなる6種類の知能を実現するためのソフトウェアライブラリをもつプラットフォーム「PRINTEPS」の構成法に関する提案です。発表では、動画による事例紹介もありました。BP賞の選考にあたっては、多分野にわたる研究者、企業、学生がチームを組んだ実践的な研究であり、かつ、今後の情報社会に大きな影響をもたらすテーマであることが評価されました。人間中心の情報システム学を迫及する本学会と関わりも深く、今後の学会への貢献が期待できます。

特別賞の黒田光洋さんの発表は、コスト削減などから弱体化が進む中堅・中小企業の情報システム部門において、ICTの活用をはじめとしたさまざまな工夫により少人数で部門の運営を実践している体験を基に、情報システム部門の立て直しの方向性を報告したものです。BP特別賞の選考に当たっては、多様化、細分化が進むICTを論理的に統合し、少人数で情報システムの運用が可能であることを示した点、ユーザー企業にとどまらず、運営を請負うベンダー企業においても参考になることが多い点が、高く評価されました。

BP賞、BP特別賞については、来年度以降も引き続き選定を行う予定です。今後も、全国大会での研究発表の活性化に向け、ご協力をお願いいたします。

なお本大会では、学生による発表に優れたものが多くみられました。研究を深められ、学会誌へ論文としての投稿を期待しています。

以上